昨の非を悔ゆる者は之れ有り、今の過ちを改むる者は鮮なし。
得意の時候は、最も当に退歩の工夫を著くべし。一時一事も亦皆亢龍有り。凡そ遭う所の患難変故、屈辱讒謗、払逆の事は、皆天の吾才を老せしむる所以にして、砥礪切磋の地に非ざるは莫し。
君子は当に之に処する所以を慮るべし。徒らに之を免れんと欲するは不可なり。

【大体の意味内容】

過去の非を後悔反省する人はあるが、現在の過ちを潔く改める人は少ない。願いがかなえられた時こそ、調子に乗らず一歩退く工夫をするべきである。一時代を築き、一つの事業を成し遂げたときには必ず「亢龍の悔い」があるのだと弁えよ。つまり昇りつめた龍は、一気に転落し身を滅ぼすこともあるのだということを。我々に見舞われる悩み苦しみ、大変な事故、屈辱的な目に遭ったり悪し様に罵られたり、逆境にさらされたりすることはすべて、天が我々の才能を老熟させようとしていることなのである。いずれも我が心身を研ぎ澄まし、切磋琢磨する資とならないものはない。リーダーとなる者はこうした艱難辛苦に対処する工夫を熟慮すべきである。せっかく天が与えてくださった機会から逃れようとするのは、よくない。

私自身も含めてですが、「あー、あの時もっと勉強しておけばよかった！」と悔やんで、今現在も勉強しない。そういう人がいかに多いことか。人生長いのですから、過去に不足したことはまだこれからいくらでも取り返せます。今を全力で生きましょう。